

手をつなぐ

題字 藤本利夫書

〈1988年7月9日創刊〉
 発行2014年9月1日 〈毎月1日発行〉
滋賀県民主教育研究所
 〒520-0052大津市朝日が丘1丁目
 11-3 教育文化会館2F
 TEL & FAX 077-525-5364
 教育110番 077-523-3715
 e-メールshiga.minken@gmail.com
 HP:http://shiga-minken.jimdo.com/
 振替口座番号(会費振込にご利用ください)
 ①ゆうちょ銀行/記号番号01070-5-40576
 ②滋賀銀行本店営業部/普通口座511256
 加入者(口座)名 滋賀県民主教育研究所

子どもから見た戦争

南澤恭子



赤紙がきて出征する前夜、父は

「今度は帰って来られないかもしれない」と言い、家族は水杯を交わし、声をこ

ろして大泣きしたそうです。私が三歳、弟が一歳だったので何も覚えていません。一九四四年の正月、『恭子はもうすぐ一

年生に入学だな。用意はできたか?』これが戦地から届いた最後の手紙です。母

は、死ぬまで大切にもっていました。やがて、アメリカのB29爆撃機があちこ

ちに爆弾を落とすようになり、ドカーンドカーンと大きな音がして家も地面も揺

れました。毎日のように学校で空襲警報のサイレンが鳴ると、低学年は先生と一

緒に運動場の周りの深い溝に入って耳と目を塞いでしゃがみます。その度にヒル

が足の血を吸ったので痛くて泣きました。近くの小学校では、高学年の生徒が作業

中に爆弾が落ちて、はね飛ばされ体がちぎれて木に引つかかっていたそうです。

地面にも大きな穴ができたと言いました。だんだん食べる物が無くなり、母の着物

を持って農家へ出かけるようになりました。ある日、母と私は電車に乗って遠く

の村へ行きました。やっとジャガイモと着物を交換して駅の近くまで帰ってきた

とき、空襲警報が鳴りました。急いで背

中の荷物をおろし、物陰に身をひそめました。母は、自分の体で私を覆ってくれ

ました。やがて空襲解除になり荷物を置いた所へもどつてみると、いくら探して

もジャガイモの袋はありません。誰かがもっていったのです。筆筒の引き出しの

中は、どんどん空になっていきました。戦時中の綴り方(作文)の時間は大嫌

いでした。先生が用紙を配り始めた時、一度だけとっさにうそ泣きをしました。

涙も出ました。いつも(兵隊さんありがとう)という文が書けないのです。

「あれっどうしたの?」

「おなか痛い」

「家へ帰るか?」

「はい」

とやりとりし、学校を出るなりスキップして帰りました。でも、そのあとで家へ

様子を見に来た先生に遊んでいるのを見つかり、ものすごく後悔する羽目になり

ます。我が家の向かいの料理屋に大阪から疎開児童が数十人連れてこられました。私のクラスにも二人入りました。毎夜、

「オカアチャーン」と泣いている声がきこえてなかなか眠れません。戦争が終わって一年過ぎてても家族が迎えに来ない子もいて、「大阪の街も、空

襲でほとんど焼かれたしなあ」と大人達は話していました。

一九四五年八月一五日は、上天気でした。もう大丈夫だと言われ、外へ出て遊びましたが、どんなに嬉しかったかしれません。二年生でした。

翌年父の戦死が知らされ、白木の箱に三センチ位の石ころが入っていました。母は、何日も仏壇の前ですつと泣いていました。表札の下に「遺族の家」という札がはられ、何度も剥がしたいと思いました。戦争は終わったけれど弁当を持って行けない日は、昇降口と講堂の間の地面にしゃがんで昼食時間が終わるのを待っている子どもたちの一人でした。栄養失調でガリガリでした。戦争は、殺し殺されるだけではないのです。生きていても、母・弟・祖母・私も地獄でした。もう二度とこんな道は絶対繰り返させてはなりません。(みなみざわきょうこ 彦根市)

《 今月の紙面 》

- ・子どもから見た戦争/南澤恭子・P1
- ・平和か戦争か/奥克彦………P2. 3
- ・シティズンシップ教育は道徳性育成にどこまでどのように関与しているか/川口広美……… P4. 5
- ・不登校・登校拒否問題全国のつどいin滋賀と滋賀民研/鎌田ユリ…P6. 7
- ・中学校の特別支援教育の状況と大切にしたいこと(その1)/中尾雅子…P8